

万博に、幼児とともにいざ行かん

弁護士知財ネット会員

弁護士 甲斐 一真

1 はじめに

2025年6月1日に、妻と2歳8か月になる娘とともに、大阪・関西万博に行ってきました。

京都在住であるため、2歳の娘を連れて夢洲に向かうことが億劫に感じて、また、平成生まれのネット世代でもあり、どちらかというとながティブな前情報ばかりを耳に入れていたため、行けたら行くかという消極的マインドでおりましたが、この度、本稿執筆のお話を頂戴しましたので、大阪・関西万博参戦を決意した次第です。

そして、いきなりですが、言い訳を。

今回、ほとんどのエリア・パビリオンで、ベビーカーを押しながらの観覧であったため、各展示物の説明等を読むことはほとんどできず（というよりも近寄れず）、また、パビリオン内の展示物についても、人が集中するところは避けて進んでいましたので、展示物等の内容を噛みしめるというよりも、ほぼ感覚だけで味わうという様子でございました。

そのため、他の先生方に比べて、多分に感覚的かつ大雑把な感想となっている点をお許し下さい。

…と、言い訳が出来てすっきりしましたので、開き直って2歳頃の幼子連れ大阪・関西万博参戦をご検討の方に向けた一稿として書き進めます。

2 事前の準備

上記のとおり、大阪・関西万博参戦を急遽決めたため、チケットの購入方法から全く分かりませんでした。

幸い、事務所内に、通期パスを購入し、大阪・関西万博へビュユーザーの兄弁がおりましたので、IDの作成からチケットの購入、当日の移動方法や、当日行くべきパビリオンまで、ほぼほぼ全てを教えてもらいました。

もし、大阪・関西万博に行きたいけれども、今一つよく分からないという方がいらっしゃいましたら、大阪・関西万博を経験済みの方にお尋ねになるのが一番だと思います。

事前準備の中で、特に役に立ったのは、各パビリオンの待ち時間の把握方法を知ったことでした。

詳細は伏せますが、特にインターネットでゲームをする際によく使われる某SNSサービスでは、会場にいる有志がリアルタイムで各パビリオンの待ち時間を投稿するというグループがあり、これを参照することである程度、効率的にパビリオンを回ることができました。

また、会場内のMAPについては、「EXPO Personal Agent」という公式アプリがDLできますが（このアプリも会場内で起動すると目的地までのルートを示してくれる優れものです。）、他にも、有志作成による各パビリオンの入場予約の要否等の細かい情報を追加したMAPが公開されています。

これらを一通り準備した上で、当日に臨みました。

3 西ゲートの選択

大阪・関西万博には、東ゲートと西ゲートの二つの入口があります。

事前情報によると、地下鉄夢洲駅から接続する東ゲートからの入場は、時間帯によって、ゲートの手前で相当待たされると聞いていましたので、西ゲートから入場することとなるシャトルバスでの移動を選択しました（幼子がいる場合は、2種類ある乗車券のうち、確実に座席が確保できる2000円の乗車券がおすすめです。私はこちらを購入しました。）。



会場への入場券は、一番早い時間帯で午前11時00分入場分しか取れなかったため、午前10時40分発のJR大阪駅（うめきたGP）発シャトルバスに乗り、会場に向かいました。

なお、大阪・関西万博の会場は夢洲にあります。シャトルバスで会場に向かう場合、その途中で舞洲（まいしま）を経由します。その際、大阪では有名ながみ焼却施設である「舞洲工場」を見ることができます。

私の妻は、パビリオンと勘違いして、「会場到着した？」と言っていました。確かに、改めてみると、パビリオンの中にあってもおかしくないように思いました。



舞洲工場 (<https://www.osaka-env-paa.jp/kojo/maishima/>)

40分程度の乗車で、大阪駅から西ゲート側の駐車場に到着します。

バスを降りてから、西ゲートに着くまでの間に、各国の国旗の下を歩く場所があり、ようやく大阪・関西万博に来たのだという実感が湧き、わくわくしてきました。



事前情報どおり、西ゲートで待ち時間が発生することはなく、すんなりと入場することができました。

4 当日の行程とベビーカーの優先入場

当日は、午前11時10分頃に入場し、午後8時過ぎに退場しましたが、結果的に、次のとおり、12個のパビリオンやエリア等を回ることができました。

フューチャーライフビレッジエリア→EXPO2025 WEST郵便局→コモンズB館→チリ
→くら寿司→PASONA NATUREVERSE（★）→インドネシア（★）→サウジアラビア（★）
→フランス（★）→オランダ→イギリス（★）→大屋根リング



（ミyakミyakのマンホール）



（車椅子で作られたオブジェ）



（飛んでいない空飛ぶクルマ）

思いの外、多くのパビリオン等に回れたと思われるかもしれませんが、これに理由があります。

大阪・関西万博の公式HPでは該当する記載を見つけられませんでした。パビリオン等によっては、ベビーカーや車椅子を利用している人がいる場合に、優先入場枠が確保されているところがあり、ほぼ待ち時間なしで入場することができます。

上記のうち「★」を付したパビリオンは全てこの優先入場枠で入場しました（別途参戦した祖母によれば杖でも対象だったとのことでした。）。

インターネット上では、この優先入場枠について賛否があるようですが、炎天下の中で幼子連れて長時間列に並ぶことは考えられず、そのため入場できるパビリオンは相当限られるのではないかと覚悟していたため、この優先入場枠の存在は大変有難かったです。

上記のとおり、比較的多くのパビリオン等を回ることができましたが、以下では、特に記憶に残った（記事映えのする写真が撮れた）パビリオン等をいくつか紹介します。

5 EXPO2025 WEST郵便局

大阪・関西万博内には、「Play！郵便局」をコンセプトに、2か所に郵便局が設置されており、郵便サービスや貯金サービスといった通常の取扱業務以外に、「Play！未来からの手紙」、「Play！切手プリ」、「Play！VRタイムトラベルメッセンジャー」の3つの体験型コンテンツが提供されています。

私は、このうち「20年後の自分」から手紙を受け取れるという「Play！未来からの手紙」を体験してきました。

近未来的な機械の前でまず写真を撮られて、その後、いくつかの質問に答えると、近未来的な動画が流れ、最後に「20年後の自分」からの手紙を受け取ることができます。

手紙には、（おそらくAIで加工された）幾分歳をとった自分の顔写真とともに、「20年後の自分」なる人物からのメッセージが記載されています。



(近未来的な機械から手紙が届く瞬間)



(20年後の自分からの手紙)

20年後の自分の顔写真の何とも言えない感じは脇に置き、現在から未来に手紙を送る郵便局がこのようなコンテンツを提供していることにエモさを感じました。

ちなみに、このコンテンツには年齢制限があったため、残念ながら娘の20年後の写真を見ることは叶いませんでした。これは20年後にとっておこうと思います。

6 PASONA NATUREVERSE

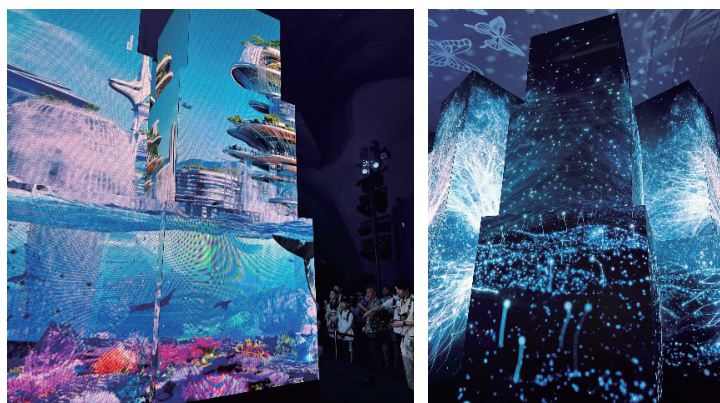
PASONA NATUREVERSEは、「いのち、ありがとう」をコンセプトに、「いのちの歴史ゾーン」、「からだゾーン」、「こころ・きずなゾーン」の3つのゾーンにより構成されています。

このうち、「いのちの歴史ゾーン」にある「生命進化の樹」や、「からだゾーン」にある「iPS心臓」等については、既に本連載第1回（藤川義人弁護士）と第3回（室谷和彦弁護士）で取り上げられていますので、ここでは「こころ・きずなゾーン」をご紹介します。

「こころ・きずなゾーン」では、「自然とテクノロジーが共生し、人々が思いやりの心でつながる、真に豊かな世界「NATUREVERSE」のショー」が上映されています。

このショーは、単にスクリーンに映像を映すのではなく、側面に液晶が搭載された複数の立方体が映像と音楽に合わせて稼働するという演出になっています。

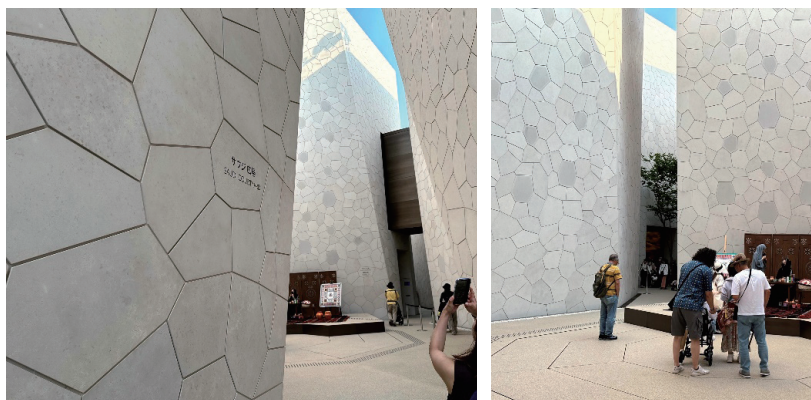
恥ずかしながら今まで見たことのない映像表現だったため、非常に興味深く鑑賞できました。



(写真では伝えられませんが、動いています。)

7 サウジアラビアパビリオン

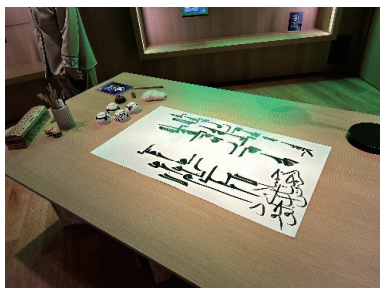
サウジアラビアパビリオンは、入った途端、現地に來たのではないと思うほど、異国情緒あふれる造りになっていました。



(あふれる異国情緒感)

特に目を引いたのが、アラビア文字の書でした。

私が見たときは、既に書かれた作品が展示されていましたが、実演パフォーマンスも行われていたようです。



(アラビア文字で描かれた書)

全く知らなかったのですが、アラビア文字で書かれた書、「アラビア書道」は、2021年にユネスコの無形文化遺産にも登録されており、その歴史は、西暦650年頃まで遡るものとことです。

書道は、日本や中国の漢字文化だけのものと勝手に考えていましたが、西洋のカリグラフィーを含め、文字を装飾するという創作行為は、世界中に存在するのだということを改めて感じました。

8 オランダパビリオン

こちらは、唯一、「7日前抽選」により予約を確保できていたパビリオンでした（チケット購入が1か月前を切っていたため、2か月前抽選を利用することはできませんでした。）。

オランダパビリオンは、「コモングラウンド（共に分かち合い、新しい価値を生み出すこと）」をテーマにした、中心に巨大な球体を備えた特徴的な構造をしています。

また、このパビリオンには、「A New Dawn -新たな幕開け-」との名称がつけられており、持続的に利用可能なクリーンエネルギーと日の出を表現しているとのこと。

建物に入ると、まず最初に、オランダのグラフィックデザイナーのディック・ブルーナにより生み出されたキャラクターである「ミッフィー」が、自転車のかごに乗って迎えてくれました。



（自転車のかごに乗るミッフィー）

オランダパビリオンでは、初めに、球体（オーブ）を渡されます。

パビリオンを進む中で、各所にこの球体を壁に近づけるように指示される場面があり、指示どおりに球体を近づけると、いろいろな色に光ります。

私には、メッセージ性が高すぎて今一つその意味を汲み取ることはできませんでしたが、娘は喜んでいました。

オランダパビリオンは、オランダと「水」との関わり合いを中心にした展示を見ながら、途中で建物の中心に設置された巨大な球体に入ってその天井に映し出される壮大な映像を鑑賞し、最後に、様々な環境問題への問いかけと、これを解決し得る新しい技術の紹介を受けるといった構成になっており、幻想的な雰囲気と環境問題への意識が上手く噛み合った展示のように感じました。

また、随所の壁にミッフィーの絵本のような展示物が設置されており、ミッフィー好きにはたまらない仕様となっていました。



（光るオーブ）



（壁に設置された絵本のようなミッフィーの展示物）

9 大屋根リングと「アオと夜の虹のパレード」

最後に、大屋根リングに上りました。できれば日中にも大屋根リングに上って、そこから見える景色を堪能したかったのですが、パビリオンを回ること必死で、結局日が落ちてからの登頂となりました。

大屋根リングに上ってからしばらくして、会場南側にある水面「ウォータープラザ」において、「アオと夜の虹のパレード」が始まりました。

私は、かなり遠くの位置におり、また、前列には既に人がたくさんいたため、微かに見ることができただけでしたが、それでも光や水の演出はとてもきれいでした。



（ショーを見たといつていいのか疑問なほど遠くから見た図）

次に訪れるときは、ぜひ近くで見たいと思っていましたが、私が大阪・関西万博を訪れた直後である6月4日に、このショーの会場である「ウォータープラザ」を含む会場内で「レジオネラ症防止指針」の指針値以上のレジオネラ菌が検出されたとの発表があり、以後、「アオと夜の虹のパレード」は公演中止が続いています。

難しいのかもしれませんが、大阪・関西万博が終了するまでに再開できることを祈るばかりです。

10 最後に

大阪・関西万博に行く前は、幼子連れで行っても楽しむことはできないのではないかと考えていましたが、ベビーカーの優先入場を含む、様々な配慮のおかげで最後まで楽しむことができました。

ました。

ただ、展示されていた先端技術等については、もっとじっくりと見てみたかったというのが本音であり、もし叶うなら事前準備を万全にして、もう一度訪れたいと思っています。

同じように小さなお子様がいらっしゃるご家庭で、大阪・関西万博への参戦を躊躇されている方にとって、本稿が大阪・関西万博に行ってみようという後押しに少しでもなれば幸いです（ただ、めちゃくちゃ疲れました。）。

（脱稿日：令和7年6月20日）